

看護学科カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 看護について基盤となる知識を身に付け、活用することができる。
- DP2 グローバルな視点で、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解するために教養と寛容さを身に付け、行動することができる。
- DP3 安全・安心・安楽な看護技術を身に付け、実践することができる。
- DP4 看護専門職として必要なコミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。
- DP5 あらゆる場でチームの一員として、連携・協働し、看護を実践することができる。
- DP6 地域で暮らす人々の健康を支援するための情報を収集・分析・統合することができる。
- DP7 看護に必要な倫理観、人の生命や人としての尊厳と権利を尊重する態度を身に付け、行動することができる。
- DP8 国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向け、人々の健康問題解決に向けて考え行動することができる。
- DP9 看護専門職として生涯にわたり研鑽し続けることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10		
18	全学部共通基盤科目群	情報システム論	2	選択				○	情報システムは、経営戦略を考える上で中核的な役割を担っており、その重要性は増すばかりである。また、情報システムを成り立たせている情報通信技術(ICT)の進歩は著しい。この進歩に支えられて急速に業績を伸ばす企業が経済を牽引する存在になっている。そこで本授業は、経営情報基礎論で学んだコンピュータに関する知識を復習しながら、より発展した詳しく情報システム内容について知識を深める。	○											
19	全学部共通基盤科目群	統計学	2	選択					統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。1. 記述統計の基礎：平均値、グラフ化など、統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。2. 確率変数と確率分布：統計モデルを定式化するために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。3. 推測統計の基礎：主に、母集団分布として正規分布と二項分布を仮定した場合における統計的推定法の基礎を習得する。	○											
20	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリA	2	選択				○	情報通信技術（ICT）の活用をするための基礎となる文書作成ソフト、表計算ソフト、発表支援ソフトの使用法の学び、情報の読み書き発信する基礎能力を養う。情報を文字データやプレゼンテーションデータ、数値データとして扱うためのソフトウェアの利用を通して、コンピュータを利用して情報を処理する方法について演習を通して学修する。	○											
21	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリB	2	選択			○	○	発表に関する資料のまとめ方や、情報通信技術（ICT）を活用してプレゼンテーションの応用能力を身につけることを目指す。発表に関する資料のまとめ方や発表支援ソフトの効果的な使い方を習得し、聞き手に分かりやすく情報の発信が可能になるよう、プレゼンテーションに必要なテクニック、方法、発表資料をまとめる方法について演習を通して学修する。	○											
22	全学部共通基盤科目群	インターネット配信	2	選択					急速に普及したインターネット動画配信を対象に、その特性と可能性を理解し、効果的な活用法を探究することを目的とする。専用機材や汎用機材を用いたストーリーミング配信の企画・構成・運営を初歩から応用まで学び、映像メディアの新たな表現形態を実際に体験的に理解する。さらに、実際の生配信制作を通じて、情報発信の実践力を獲得し、現代のメディア環境に対応できる知識と応用力を養う。	○											
23	全学部共通基盤科目群	観光の現在と未来	2	選択					本講義は、観光が求められる現代的意義を理解し、観光の多様性と社会との関わりについて学修することが目的である。そのため、講義は様々な分野の教員が担当するオムニバス形式で展開する。人類学や行動論などの切り口から学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光資源（芸術、健康、自然など）や、観光と社会の関わり（ビジネス、まちづくり、メディア）についての事象を取り上げ、観光学への理解を深める。	○											
24	全学部共通基盤科目群	ヘルスツーリズム	2	選択					少子高齢化社会を迎え、健康づくりが「個人生活の質」から「地域・環境の質」まで求められており、新しい健康観・ウェルネスが提唱されている。本講義では、健康増進や環境及び地域文化とのかかわりで心身を癒す広義のヘルスツーリズムの概念を理解し、生涯に渡って、ウェルネスの考え方、ウェルネスのライフスタイルを維持するため基礎知識を身につけることを目的とする。	○				○							
25	全学部共通基盤科目群	社会心理学	2	選択					本講義ではまず、自己概念や自己意識などに関する捉え方を学ぶことで私たちが他者から影響を受けていることを理解する。その上で、対人認知や印象形成など他者をどのように認知するのか、他者とのかかわりはどのように作られているのかということについて心理学的な観点から理解していく。さらに私たちが集団の中でどのように行動するのか、集団における心理についても理解を深める。	○											
26	全学部共通基盤科目群	生活と文化	2	選択					私たちは古来から育まれてきた日本の文化を受け継いで生活している。また、日々の生活を通して日本の文化、地域の文化、家族の文化を紡いでいる。授業では、共生社会の基本的理念と課題を学び、少子高齢社会の市民生活の動向とライフスタイルの変化を考察し、具体的事例を通してその方向性と課題について、講義および振り返りによって理解を深める。	○											
27	全学部共通基盤科目群	生涯スポーツ概論	2	選択					生涯スポーツとは、スポーツを通して生活の質の向上を目指し、個人のライフスタイルに応じた運動やスポーツを生産にわたって楽しむことである。本授業では、スポーツについて人文科学（歴史）、社会科学（国の政策）、自然科学（人体の構造や機能）などの観点から理解を深めるとともに、運動やスポーツを実践するための基礎的なトレーニング方法を学ぶ。	○											
28	全学部共通基盤科目群	スポーツ社会学	2	選択					現在、我々が慣れ親しんでいる多くのスポーツの原型は、19世紀末イギリスを中心にヨーロッパから世界中に伝えられたものであるが、社会環境の変化にともない、スポーツが社会に果たす役割や意味は変化してきている。本授業では、スポーツやスポーツの歴史を理解した上で、現代社会におけるスポーツの考え方や問題点を明らかにし、各々の問題点について自らの意見を論理的に説明できることを目標とする。	○											
29	全学部共通基盤科目群	ボランティア論	2	選択					この授業では、地域もしくはコミュニティ、ボランティアというキーワードが含むもつ意味を整理した上で、日本における地域社会やボランティアの現状について精査していく。次いで、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉など福祉の各領域において展開するボランティア、環境ボランティアや災害ボランティアといった様々なボランティアの意義をコミュニティという文脈において整理してみる。最後に地域において展開されるボランティア活動をどう支援し、とりまとめていくかという視点を示し、今後の地域社会におけるボランティアの可能性を考察する。	○											
30	全学部共通基盤科目群	コミュニケーションの基礎	2	選択					現代社会において「コミュニケーション」の重要性は日々高まっていますが、そもそも「コミュニケーション」とはどのような概念・行為として定義できるのでしょうか。本講義では、コミュニケーションが単独で成立するものではなく、常に他者や「メディア」の存在を前提とすることに着目します。その上で、コミュニケーションを支える存在や情報環境について考察するとともに、20世紀半ば以降から現在に至るまで、メディアを通じたコミュニケーションがどのように実証的に捉えられてきたのかを具体的な事例とともに検討します。こうした学びを通じて、現代のコミュニケーションを理解するための基礎的な視点を獲得することを目指します。	○			○								
31	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトA	2	選択		○	○		アートを媒介としたコミュニティアクティビティの実践を通じて、障がい者と地域の相互理解と関係形成を促進する。アール・ブリュットという既存の美術教育や評価軸にとらわれない自由な表現を活用し、作品展示等の活動の企画・実施・評価を通して、地域課題の把握と解決に向けた実践力および協働的態度を養うとともに、地域共生社会の実現に資する力を育成する。					○	○						

看護学科カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 看護について基盤となる知識を身に付け、活用することができる。
- DP 2 グローバルな視点で、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解するために教養と寛容さを身に付け、行動することができる。
- DP 3 安全・安心・安楽な看護技術を身に付け、実践することができる。
- DP 4 看護専門職として必要なコミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。
- DP 5 あらゆる場でチームの一員として、連携・協働し、看護を実践することができる。
- DP 6 地域で暮らす人々の健康を支援するための情報を収集・分析・統合することができる。
- DP 7 看護に必要な倫理観、人の生命や人としての尊厳と権利を尊重する態度を身に付け、行動することができる。
- DP 8 国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向け、人々の健康問題解決に向けて考え行動することができる。
- DP 9 看護専門職として生涯にわたり研鑽し続けることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 1 0	
108	専門基礎科目群I	ライフステージIPE B	1	必修		○			より安全で質の高い医療・ケアを実現するための専門職連携（IPE：Interprofessional Education）の基礎を学ぶ。他職種による講演やグループワークを通して、医療・保健・福祉に関わる多様な専門職の役割と専門性を理解し、チーム医療に必要な協働の視点を養う。さらに、自らの将来の職種への理解を深め、他職種との違いや連携の在り方を考えることで、チームとして機能する力を身につける。				○	◎						
109	専門基礎科目群I	ライフステージIPE C	1	選択					専門職連携教育の一環として、薬学・看護・福祉・理学療法系の3学部4学科による混成チームでの学びを通じ、チーム医療の実践力を養う。病院や在宅支援を想定した模擬事例を用い、対象者の健康課題を明らかにし、本人の望む生活を支える多職種支援の在り方を検討する。グループワークを通して他職種との対話力と合意形成力を高め、チームケアに必要なリーダーシップとメンバーシップを身につける。					◎			○			
110	専門基礎科目群I	関係法規	1	必修					法の概念を基盤として、看護法、医事法、保健衛生法、薬事・環境衛生法、社会保険法、福祉法、労働法など保健医療福祉に関わる主要な関係法規を体系的に学ぶ。講義に加えてディスカッションを取り入れ、法の運用や社会情勢の変化と関連づけながら理解を深める。単なる知識習得にとどまらず、看護実践や日常生活との関連を意識した学修を重ね、国家試験に対応する法的思考と実践的理解を養う。	◎							○			
111	専門基礎科目群I	保健医療統計学	2	必修		○	○		根拠に基づく医療（EBM）・看護（EBN）の基盤となる保健医療統計の理解を深める。人口統計や疾病構造、保健医療福祉に関する主要な統計指標を学ぶとともに、信頼できる統計データを入手する方法を習得する。さらに、地域における健康課題の分析に必要な統計学的指標や疫学的アプローチの基本を理解し、統計結果を適切に読み取り活用する力を養う。	◎	○									
112	専門基礎科目群I	地域母子保健A	1	選択		○			地域で生活する母親・子ども・父親および家族の健康支援に必要な理論と方法を学ぶ。地域母子保健の概念、日本の母子保健施策や行政の仕組み、母子保健の現状と課題を理解し、成長発達や家族背景をふまえた健康課題の査定と支援方法を修得する。さらに、地域で活動する多職種や関係機関との連携・協働の重要性を学び、地域における母子保健支援における看護職の役割を考察する。						◎		○			
113	専門基礎科目群I	学校保健	2	選択		○			学校保健の意義・目的とその構造を理解し、学校保健安全法などの関係法規や制度を学ぶ。児童生徒の発育発達と心身の健康課題をふまえ、健康観察・健康診断・健康相談・救急処置などの保健管理・保健教育・組織活動の基本を学修する。また、学校保健を推進する教職員、とくに養護教諭の役割や職務の特性を理解し、学校現場における健康支援活動の基礎を身につける。							○		◎		
114	専門基礎科目群I	家族発達支援論	1	選択					家族看護の基盤となる概念や理論の枠組みを学び、家族の構造・機能・役割の変遷や家族を取り巻く課題について理解を深める。家族支援の諸理論を学修し、病院・地域・母子保健など実習領域における家族支援の視点を養う。さらに、カルガリー家族看護モデルを用いた演習を通して、家族を理解し支援する枠組みを身につけ、実習において家族支援を展開する基礎を形成する。	◎					○					
115	専門基礎科目群I	医療英語	2	選択					医療現場で必要とされる基礎的な英語運用能力を養い、国際的に活躍できる看護専門職を目指すことを目的とする。テキストを用いて正しい発音と医療専門用語を学び、医療場面におけるリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングを段階的に学修する。疾病や看護に関する英文文献の読解、情報収集、意見表現の演習を通して、外国人患者対応や海外研修、国際看護に必要なコミュニケーション能力を育成する。		○		◎							
116	専門基礎科目群I	人間関係論	2	必修					「人間のパーソナリティを作り出す工場」であり医療の対象でもある家族の本質を探ることにより、社会学の本質としての様々な人間関係の基礎を学んでいく。とくに医療・福祉の援助に重要となる概念を中心に理解し、現場で応用できる知識を身につけることを目的とする。家族の恒常的变化と多様性を踏まえ、価値判断に偏らない視座から家族を捉えなおし、援助者としての態度形成へつなげる気づきを得る。		○		◎							
117	専門基礎科目群I	看護情報学	1	必修					保健医療における情報の意義を理解し、看護実践に必要なITリテラシーと情報活用能力を養う。統計データや健康情報の適切な読み取り、学術情報の検索方法を学び、ICTを活用した情報収集・整理・共有の基礎を修得する。さらに、個人情報保護や情報セキュリティ、情報倫理の重要性を理解し、安全で信頼性の高い情報管理を行うための基礎を培う。	○		◎								
118	専門基礎科目群I	死生学	2	選択					死にゆく人のケアに当たる者としての心の準備を養うことを目的とする。死生学の基礎的理解として、生と死の意味、死の受容、グリーフとスピリチュアルケアの視点を学ぶ。さらに代表的な東洋・西洋の生死観を概観し、生命の誕生、生命の危機と死、老い、葬送儀礼など具体的テーマを通して、人間の尊厳と生きることの価値を多面的に考察する。							◎		○		
119	専門基礎科目群II	医学概論	1	選択					医学と看護の基礎理解を目的とし、医療を取り巻く社会的背景と現代医療の課題について学ぶ。医療の歴史、社会保障制度、医療倫理などの基本概念に加え、公衆衛生・母子保健・精神保健・国際保健など医療の多領域を概観する。さらに、医療現場における医療者と患者・家族との関係、チーム医療の役割、看護職の専門性を理解し、よりよい医療を妨げる要因とその改善の視点を学修する。	◎							○			

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 看護について基盤となる知識を身に付け、活用することができる。
- DP2 グローバルな視点で、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解するために教養と寛容さを身に付け、行動することができる。
- DP3 安全・安心・安楽な看護技術を身に付け、実践することができる。
- DP4 看護専門職として必要なコミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。
- DP5 あらゆる場でチームの一員として、連携・協働し、看護を実践することができる。
- DP6 地域で暮らす人々の健康を支援するための情報を収集・分析・統合することができる。
- DP7 看護に必要な倫理観、人の生命や人としての尊厳と権利を尊重する態度を身に付け、行動することができる。
- DP8 国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向け、人々の健康問題解決に向けて考え行動することができる。
- DP9 看護専門職として生涯にわたり研鑽し続けることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10		
131	専門基礎科目群II	周産期医学B	1	選択					周産期における母子の健康を支えるために必要な免疫・感染・薬物療法・栄養・生活環境の視点を学ぶ。母体免疫と胎児・新生児免疫の特徴を理解し、周産期に特有の感染症のリスクと対応について学修する。さらに、妊婦・授乳婦に医薬品を使用する際の基本的原則や新生児・女性疾患に対する薬物療法の考え方を学ぶ。加えて、妊娠期・授乳期の栄養や生活環境が母子の健康に及ぼす影響を理解し、適切な支援の基礎を養う。	◎					○						
132	専門基礎科目群II	ポイントオブケア（POC）理論	2	選択					医療機関で使用されるME機器に関する基礎知識を学び、その原理と安全な活用方法を理解する。音・光・圧力・電気など物理学の基礎概念をもとに、心電計、血圧計、パルスオキシメータなど看護に不可欠な医療機器の仕組みを学修する。臨床で得られるデータと患者の状態を関連づけて解釈する力を養い、医療機器を適切に扱うための判断力を培う。	◎		○		○							
133	専門基礎科目群II	感染症学	1	必修		○			主要な病原微生物の特徴と人体の防御機構との関係およびその反応過程について学ぶ。看護に必要な「人体の構造と機能および健康障害と回復」についての基礎的知識を、微生物感染と治療、免疫の観点から理解するとともに、代表的な感染症の発症機序と診断の基本を学修する。また「看護技術の基本」として、感染予防の技術や院内感染防止対策を科学的根拠に基づいて考えられるようになる。	◎								○			
134	専門基礎科目群II	臨床薬理学	2	必修	○				医薬品の薬効発現のメカニズムを理解し、臨床における投薬治療の目的と留意点を学ぶ。各薬物を薬効発現のメカニズムごとに分類し、遺伝子レベル・分子レベル・細胞レベル・臓器レベルでその仕組みを理解する。疾患の発症機序とその過程のどこを抑えるのかを薬の作用として捉え、同時に望まない作用が生じる仕組みについても理解することで、安全な薬物療法の基礎を身につける。	◎	○	○									
135	専門基礎科目群II	薬学系演習	1	必修	○	○			臨床における投薬治療の目的と留意点に関する理解を深めるため、薬理・薬物動態を中心に医薬品の適正使用を学ぶ。既存の医薬品だけでなく新薬や未知の医薬品に接した場合にも対応できる応用力を養う。小グループによる演習を通じて疾患について調査し、その発症原因と治療ガイドラインを理解するとともに、薬の作用機序、副作用、使用方法、看護上の留意点を考察し、臨床に活かす力を育てる。	○				◎	○						
136	専門基礎科目群II	臨床薬物動態論	1	必修	○				薬物動態は薬理と並んで医薬品による治療の理解において根幹をなすものである。具体的には薬物の吸収、分布、代謝そして排泄の各ステップについてそのメカニズムを学び、コンパートメントモデルの定量的取り扱いを学ぶ。また、薬物は目的部位に適切な濃度で到達し、一定時間作用した後に体内から消失しなければならず、この過程に関与する薬物側と生体側の因子について理解を深める。	◎			○	○							
137	専門基礎科目群II	ゲノム医療	2	選択		○		○	近年、数々の疾患が遺伝子レベルの異常と関連づけて理解されるようになった。本授業では、遺伝子・染色体・ゲノムに関する基本を学び、疾患の成り立ちやSNPの観点からの薬物治療と体質の関係、周産期医療・小児医療で重要となる遺伝子異常や染色体異常を理解する。さらに、これらの知識を応用し、遺伝子治療、アンチセンス医薬品、リボザイム医薬品、デコイ医薬品、RNA医薬品の基礎を学ぶ。	◎	○		○								
138	専門基礎科目群II	薬物療法管理論	2	選択					薬剤に関するアセスメント、作用機序、副作用について理解し、看護職として薬物療法を総合的な観点から患者の立場に立って説明できる力を養う。さらに、薬物療法に関するリスクを疾患および患者の状態からアセスメントできることを目標とする。成人、老年、小児、母性、精神の各領域における特徴的な薬剤について理解を深め、適切な投与支援と安全管理の視点を身につける。	◎											
139	専門基礎科目群II	臨床試験学概論	2	選択		○			医薬品の開発過程で重要な役割を担う試験の基本概念を学ぶ。試験実施の倫理的側面や法的規制、国際基準を理解し、試験コーディネーターや臨床開発モニターの基礎知識を習得する。また、試験実施におけるコミュニケーションの基礎についても学び、患者管理や医療従事者との連携を円滑に進めるスキルを養う。これにより、試験業務におけるデータ収集や患者管理、モニタリング手法の基盤を築くことができる。	○	◎			○							
140	専門基礎科目群II	東洋医学概論	1	選択		○		○	西洋医学とは異なる身体観・病態観・全人的な視点を基盤とする東洋医学について、その理念・知識・実践を学び、多様な視点から疾病と治療を理解する。東洋医学の人体論を理解し、製造方法や生薬を通して主な漢方を学び、服薬支援に活かす力を身につける。講義と学外授業を通して理解を深め、さらに漢方や鍼灸に加え、看護実践に活用できる薬膳についても学ぶ。	◎			○								
141	専門科目群I	看護学概論	1	必修	○	○			看護の目的論・対象論・方法論を概観し、「看護とは何か」を考えるきっかけをつくる入門講座である。看護学の基盤となる人間・環境・健康の概念を学び、看護の役割と機能を理解する。あわせて看護の歴史や看護理論、看護技術、倫理を学び、学問としての看護への理解を深める。関連図書や医療トピックスを取り上げながら学習態勢を整え、チーム医療の視点も含めて望ましい看護観を形成する。	◎							○				

看護学科カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 看護について基盤となる知識を身に付け、活用することができる。
- DP2 グローバルな視点で、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解するために教養と寛容さを身に付け、行動することができる。
- DP3 安全・安心・安楽な看護技術を身に付け、実践することができる。
- DP4 看護専門職として必要なコミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。
- DP5 あらゆる場でチームの一員として、連携・協働し、看護を実践することができる。
- DP6 地域で暮らす人々の健康を支援するための情報を収集・分析・統合することができる。
- DP7 看護に必要な倫理観、人の生命や人としての尊厳と権利を尊重する態度を身に付け、行動することができる。
- DP8 国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向け、人々の健康問題解決に向けて考え行動することができる。
- DP9 看護専門職として生涯にわたり研鑽し続けることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	
142	専門科目群I	看護方法論A	2	必修	○				対象の健康状態を身体的側面からアセスメントする方法を学び、正常からの逸脱の有無を判断するための基礎的能力を養う。問診・計測・視診・聴診・触診の方法を用い、フィジカルアセスメントに必要な基本技術を基に、系統別にそれぞれのアセスメント方法を小グループで学習する。これらを通して、看護師が対象の身体をアセスメントする目的およびその方法を理解する。	◎										
143	専門科目群I	看護方法論B	1	必修	○		○		看護学専門科目に共通する問題解決の思考プロセスとして、看護過程の概念と展開の方法を学ぶ。看護過程の役割と意義、および看護過程のステップと看護実践における展開方法を理解する。食事、排泄、睡眠に対する健康問題を持つ対象への症状マネジメントと看護に必要な技術を学習し、関連する具体的な事例を用いた看護過程を展開する。	◎										
144	専門科目群I	看護方法論演習A	1	必修	○	○	○		すべての看護行為において必要となる看護技術である感染予防技術、環境調整技術、コミュニケーション技術について講義・演習を通して学習する。それぞれの看護技術に必要な基本的知識と技術を学び、科学的根拠に基づいた原理・原則に沿った行動がとれることを目指し、看護に必要な技術を習得していくための基盤を作る。	○		◎								
145	専門科目群I	看護方法論演習B	2	必修	○	○	○		バイタルサインの観察と日常生活行動の援助を中心とした看護技術を講義、演習を通して学習し、看護技術を構成する知識、技能、態度の3要素を身につける。援助を行う際に必要な原理原則および安全・安楽に基づく援助方法についての理解を深めながら技術を習得していく。また、提供する看護技術には目的（根拠）が存在することをふまえ、援助の実施による対象への影響について考え、行った援助を観察評価できる姿勢を養う。	○		◎								
146	専門科目群I	看護方法論演習C	2	必修	○	○			健康問題に対処するための診断、治療、検査、処置技術の根拠を学習し、安全、安楽な看護技術を提供するための基本的な知識と技術を習得する。ここでは健康障害をもった人々に対して行われる薬物療法に伴う看護、検査に伴う看護を中心に各種診療に伴う基本的な看護技術の習得をシミュレータや模型を用いたグループ単位で学ぶ。	◎										
147	専門科目群I	看護方法論演習D	1	必修	○	○	○		模擬患者へのケア演習やシミュレーション教育を活用し、事例を通して臨床判断能力および倫理判断能力を養う。多様な看護場面において看護過程を展開し、全人的・多角的に患者をとらえた上で、的確な臨床判断・倫理判断とは何か、どのように実施するかを判断の根拠とともに学び、実践的思考を深め看護実践へ生かす視点を培う。	◎										
148	専門科目群I	看護管理	1	必修	○				看護における管理の対象は、人、物、経済、時間等多岐にわたり、看護の質向上につながっていることを理解する。また、管理者のみならず初學者であっても看護管理の視点を持つことの重要性を認識し、実践できるようにするために、看護管理プロセスとそのアウトカム評価について学ぶとともに、変化する社会情勢を踏まえた管理の意義と効果を多角的に考察する。					◎		○				
149	専門科目群I	基礎看護学実習A	1	必修	○	○			看護の対象理解と対象が療養する場の理解を深め、医療場で看護師とともに既習の日常生活援助技術を学ぶ。看護援助の実施までの思考過程および患者や看護師とのコミュニケーションを通して、医療場における看護の役割と機能、看護学を学ぶ視点をより明確にするとともに、多職種連携や看護の社会的意義にも目を向け、実習での学びの強化を図る。	◎										
150	専門科目群I	基礎看護学実習B	2	必修	○	○	○		健康障害を持ち療養している対象の理解を深め、生活における基本的ニーズの観点から情報収集、アセスメント、計画立案という看護の系統的思考過程の展開について学ぶ。あわせて、科学的な根拠に基づく確かな技術を提供できる看護実践の基礎を身につけることを目的とし、対象の個性を尊重した看護を実践するための土台を培う。			◎	○							
151	専門科目群I	サービスマーケティング	1	必修	○	○			地域社会のニーズに沿った地区活動に参加し、地域に暮らす市民として地域に貢献できる素養を身に付け、看護専門職としてのスキルを発揮する上の基盤とし、看護学を学ぶ準備学習とする。また、地域住民との交流や協働活動を通して社会性と実践力を養い、ボランティア活動の意義を理解するとともに、報告・連絡・相談を基本とした協動的な集団行動を身につける。	○	○		◎	○						
152	専門科目群II	成人・老年看護学概論	2	必修	○				治療および療養を必要とする成人期から老年期の特徴をライフサイクルの観点から理解し、治療および療養を必要とする大人を対象とした円滑な治療・療養の支援と回復過程・自立過程およびQOLの維持・向上に向けた看護の役割・機能と基本的な実践活動について学ぶ。慢性期・急性期・老年期における対象理解と看護の展開を多角的に学修する。	◎										
153	専門科目群II	クリティカルケア方法論	2	必修	○	○			急性期医療及び看護、周手術期の治療・看護について理解し、クリティカル領域で遭遇しやすい事例において、術前・術後看護について解剖生理から疾患、治療法、看護について習得する。また、周手術期における安心、安全、安楽な看護技術を提供するための根拠を考え、患者の状態を適切にアセスメントしながら必要な援助を行う視点を養う。	◎			○			○				
154	専門科目群II	クリティカルケア方法論演習	1	必修	○	○	○	○	手術療法を必要とするクリティカル領域の患者の特徴を理解し、治療と円滑な回復を支援するために必要な看護実践の基礎的技術を習得する。シミュレーション演習や事例検討を通して、手術侵襲の理解、術前・術中・術後の看護アセスメント、術後合併症予防、不安や痛みへのケアなど、クリティカルケアにおける患者の状況把握と看護の役割を学ぶ。	○		◎								

看護学科カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 看護について基盤となる知識を身に付け、活用することができる。
- DP 2 グローバルな視点で、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解するために教養と寛容さを身に付け、行動することができる。
- DP 3 安全・安心・安楽な看護技術を身に付け、実践することができる。
- DP 4 看護専門職として必要なコミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。
- DP 5 あらゆる場でチームの一員として、連携・協働し、看護を実践することができる。
- DP 6 地域で暮らす人々の健康を支援するための情報を収集・分析・統合することができる。
- DP 7 看護に必要な倫理観、人の生命や人としての尊厳と権利を尊重する態度を身に付け、行動することができる。
- DP 8 国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向け、人々の健康問題解決に向けて考え行動することができる。
- DP 9 看護専門職として生涯にわたり研鑽し続けることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 1 0	
155	専門科目群II	クリティカルケア実習	3	必修	○	○	○		クリティカル領域にあり健康回復に向けての急性期的治療を受ける成人期から老年期の対象を受け持ち、この期に行われる治療、処置の意味を理解し、合併症予防、苦痛の緩和及び日常生活の回復に向けた看護援助を行うための基礎的能力を修得する。また、安全と安楽を確保しつつ多職種と連携し、個別性のある援助を提供する視点を養う。	○		○	○	◎		○		○		
156	専門科目群II	慢性疾患看護方法論	2	必修	○				慢性的な経過をたどる健康障害を持つ成人期から老年期の患者とその家族の特徴を理解し、健康障害と折り合いをつけながら生活する対象のケアに必要な看護実践の理論と方法を学ぶ。慢性症状を呈する代表的な疾患の検査、治療の特徴や食事療法、運動療法、薬物療法、放射線療法等を学習し、慢性疾患患者に対する生活支援と自己管理に関してセルフケア理論、成人教育理論等の理解を基盤とした看護実践方法を学修する。	◎										
157	専門科目群II	慢性疾患看護方法論演習	1	必修	○	○	○	○	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ成人期から老年期の患者とその家族の特徴を理解し、慢性期に特有の看護を展開するための基礎的技術を習得する。慢性疾患患者の事例展開を通して、アセスメント能力を習得し療養支援に必要な看護技術を学ぶ。また、食事療法、運動療法、薬物療法におけるセルフマネジメント支援を患者教育技術や看護実践理論を用い、シミュレーション演習、ロールプレイを通して習得する。	○	○	◎								
158	専門科目群II	慢性疾患看護実習	3	必修	○	○	○		慢性的な経過をたどる健康障害を持つ成人期から老年期の対象を受け持ち、患者とその家族の理解を基盤として慢性期の治療の意味を理解し、残存機能やセルフケア能力を考慮した看護実践を提供できる基礎的能力を修得する。さらに、入院から在宅・社会復帰までの生活支援やセルフマネジメント支援、多職種連携を通して、個別性に合わせた看護実践を提供できる能力を培う。	◎		○								
159	専門科目群II	老年看護方法論	2	必修	○	○			加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を踏まえ、高齢者の生活と健康を支える看護について学ぶ。老年期に多くみられる健康障害の病態理解やヘルスアセスメント、日常生活支援、症状緩和、安全で安楽な療養支援を理解し、その人らしさを尊重した健康生活の維持・向上を目指して、地域包括ケアや多職種連携、エンドオブライフケアを含む看護の実践力を養う。	◎			○							
160	専門科目群II	老年看護方法論演習	1	必修	○				高齢者を対象に、老年看護学の理論、知識、技術を踏まえ、残存機能を活かし自立を促進させる老年看護技術を習得する。老年期の生活者の紙上事例を用いて看護計画の立案をグループ単位で演習し、生活機能を重視した目標志向型思考を養う。また、老年期に発症しやすい摂食・嚥下障害、皮膚障害、移動障害について、シミュレーション・ロールプレイを用いて演習を行い、基本的な援助方法について学ぶ。	◎		○								
161	専門科目群II	老年看護学実習	2	必修	○	○	○		介護保険施設における実習を通して、老年期にある人と家族の生活、および加齢・疾病・障がいと身体・心理・社会面に及ぼす影響を理解し、生活の質（Quality of life: QOL）の維持・向上に向けた老年看護について学ぶ。高齢者の発達段階や生活史・価値観を踏まえた個別性のある援助を検討し、看護過程を展開するとともに、継続看護の必要性と社会福祉サービスについて理解する。				◎		○					
162	専門科目群II	母子看護学概論	2	必修	○	○			子どもの権利、小児期各期の成長発達と健康支援、幼児の形態的・身体生理の特徴、ウィメンズヘルス・リプロダクティブヘルスの概念および課題、女性のライフサイクル各期における健康と看護、母子保健関連の法律・制度等について学び、小児看護・母性看護の概念と対象を理解し、ライフサイクル各期における家族の健康と看護について考える。			◎				○	○			
163	専門科目群II	母性看護方法論	2	必修	○	○	○		妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児・家族の健康上の諸課題への理解を深め、妊娠・分娩・産褥の経過および新生児の特徴に応じた看護を展開するための基礎的知識を習得する。リプロダクティブヘルス/ライツやウェルネスの視点を踏まえ、各期の健康状態を総合的にアセスメントし、適切な看護援助を計画・実践する基礎を身につける。			◎	○							
164	専門科目群II	母性看護方法論演習	1	必修	○	○			妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児・家族の健康上の諸課題への理解を深め、看護実践に活用できる知識、技術を習得する。周産期各期の特徴的な課題を持つ事例を展開し、保健指導技術、妊娠期のアセスメント技術、産婦・褥婦への適切な看護技術について学ぶ。また新生児のアセスメント技術、哺乳技術、沐浴技術等についてもモデル人形、シミュレーション等を使用して演習する。			◎	○							
165	専門科目群II	母性看護学実習	2	必修	○	○	○		妊婦、産婦、褥婦および新生児の特徴を理解し、生命を産み育てる過程と母児の適応過程を学習する。受け持ち患者を通して周産期にある母子と家族のニーズを理解し、対象に合わせた看護過程の展開を図るとともに、正常経過の維持促進や健康からの逸脱の予防・回復を踏まえた看護を学び、新しい生命の誕生を尊ぶ姿勢を養う。			◎	○							
166	専門科目群II	小児看護方法論	2	必修	○	○	○		小児期に出現しやすい健康障害について学び、小児の健康障害が小児とその家族に及ぼす影響について理解する。さらに、小児と家族の健康レベルに応じた看護と、子どもに特有の症状（発熱・脱水・嘔吐・下痢など）の理解と看護について学ぶことを通じて、健康を障害された小児とその家族の理解と、フィジカルアセスメント・救命救急看護などの具体的な援助方法等についての基礎的知識を習得する。	◎		○	○							

看護学科カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 看護について基盤となる知識を身に付け、活用することができる。
- DP 2 グローバルな視点で、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解するために教養と寛容さを身に付け、行動することができる。
- DP 3 安全・安心・安楽な看護技術を身に付け、実践することができる。
- DP 4 看護専門職として必要なコミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。
- DP 5 あらゆる場でチームの一員として、連携・協働し、看護を実践することができる。
- DP 6 地域で暮らす人々の健康を支援するための情報を収集・分析・統合することができる。
- DP 7 看護に必要な倫理観、人の生命や人としての尊厳と権利を尊重する態度を身に付け、行動することができる。
- DP 8 国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向け、人々の健康問題解決に向けて考え行動することができる。
- DP 9 看護専門職として生涯にわたり研鑽し続けることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 1 0	
167	専門科目群II	小児看護方法論演習	1	必修	○	○			小児の成長と発達段階に応じた観察の方法、発達段階と健康状態に応じた看護介入や援助技術の基本を、講義や視聴覚教材・モデル人形を用いた演習を通して理解する。バイタルサインの測定、身体計測の方法、検査や与薬技術ならびに発達段階に応じた効果的な遊びや説明の技術について学習する。ビデオテープや新聞記事を用いて事例展開し、グループ間で討論することによって思考を深める。			◎	○							
168	専門科目群II	小児看護学実習	2	必修	○	○	○		講義で得た知識を統合して、子どもやその家族の健康を保持増進するために必要な小児看護の基礎的能力を養えるように助言・指導を行う。健康な子どもとの関わりから子どもの日常生活や生活の援助、小児の成長発達について学習し、さらに健康障害をもつ子どもとの関わりを通して、小児看護に求められる基礎的看護能力や看護実践能力を身につける。			◎	○		○					
169	専門科目群II	精神看護学概論	1	必修	○	○			こころの健康のあり方、こころのしくみと働き、ストレスや危機がこころの健康に及ぼす影響、ライフサイクルとメンタルヘルスについて広く学びながら、こころの健康とは何かについて概要を理解する。さらに、現代社会が抱える多様なメンタルヘルスの問題について、社会的背景や生活環境との関連から原因を考察し理解を深める。	○										
170	専門科目群II	精神看護方法論	2	必修	○				代表的な精神疾患の病態像、症状、経過や治療の特徴を理解し、精神の健康問題を抱える人とその家族への看護を学ぶことで、必要な看護を考える力を養う。また、精神医療・看護の歴史的背景と精神保健医療福祉の法制度を理解し、地域で生活する当事者の視点に基づいた支援を考察する。さらに、安心・安全を意識した看護の視点を踏まえ、精神医療における看護師の役割を学ぶ。	◎		○								
171	専門科目群II	精神看護方法論演習	1	必修	○	○	○		精神看護学概論、精神看護方法論で学んだ知識をもとに、精神の健康課題のために生活上の困難をかかえている患者について、セルフケアの視点に基づいた多角的なアセスメントとケアプランの立案の方法を学習する。また、精神保健医療福祉を取り巻く多職種連携の実際や倫理的課題、人権と権利擁護を知り、より多角的な視点で精神看護実践をできる力を培う。				◎			○				
172	専門科目群II	精神看護学実習	2	必修	○	○	○		精神の健康上の問題のために生活上の困難を抱えている患者について、セルフケアの視点からその人を捉え、その人らしい生活や生き方に向けた援助の基礎的能力を習得する。精神保健医療福祉領域における地域支援と患者やその家族に対する支援を考える力を養う。また、対象との関わりを通して自分自身を見つめ、対象との関係形成のプロセスを通して、治療的存在としての自己を考えることができる能力を身に付ける。	◎	○									
173	専門科目群III	世界の中の日本	1	選択		○			グローバル化が進む現代社会において、人々の健康や福祉の課題は国境を越えて共有されている。本授業では「世界の中の日本」という視点から、国際社会の構造と課題を理解し、多文化共生のあり方を考察する。また、国際協力やグローバルヘルスに関する政策動向を学び、保健医療福祉の視点から世界と地域社会を結んで考える力を育成する。		◎				○					
174	専門科目群III	地域・在宅看護概論	1	必修	○				在宅看護の基本理念、在宅看護成立の条件、在宅看護の提供される場や対象が理解でき、在宅看護において必要な看護倫理を学ぶ。また、地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を理解するとともに、在宅看護の必要性とその意義、現状、在宅で療養している対象者とその家族、社会資源について知り、在宅で適切な看護が提供できる知識、技術、態度を学ぶ。					○	◎					
175	専門科目群III	地域・在宅看護方法論	2	必修	○				在宅で療養する人々とその家族の特性に応じた看護支援を展開するための基礎的理論と方法を学ぶ。在宅看護に必要な医学的知識とフィジカルアセスメントを習得し、在宅療養者と家族の生活状況を包括的に捉える在宅看護過程を理解する。また、疾病の悪化予防や健康の維持、QOLの向上を重視した生活援助や疾病管理、終末期ケアのあり方を地域包括ケアの視点から考察する。				◎		○					
176	専門科目群III	地域・在宅看護方法論演習	1	必修	○	○		○	在宅の場の理解を基盤に適切な看護支援を展開するために必要な基礎的技術を習得する。在宅という療養の場と健康レベル、家族関係を想定した訪問看護事例を用いて、少数のグループで具体的な援助方法を計画し、在宅演習室において実践する。この演習を通して、訪問マナー、ケアマネージメント技術、相談・指導技術、日常生活援助技術など在宅における基本的な技術を習得する。				◎	○						
177	専門科目群III	公衆衛生看護学概論	2	必修	○	○	○		公衆衛生看護活動の歴史を概観し、公衆衛生看護学の基盤となる諸理論から、対象論、目的論、方法論を捉え、地域住民に対する健康支援と保健師の役割について理解を深める。また、地域包括ケアシステムの理念を理解し、システムの先駆的取り組み事例を学習することにより、地域の特性とニーズに応じた地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みを考察する。						◎		○			
178	専門科目群III	地域・在宅看護実習	2	必修	○			○	訪問看護ステーションでの実習を通して、在宅で健康障害をもちながら暮らす人々とその家族の看護活動の実際を学ぶ。さまざまな健康課題と健康障害が生活に及ぼす影響、保健・医療・福祉サービスの活用方法と、および多職種との連携・協働について学習し、ケアサイクルにおける訪問看護師の役割と機能、看護職としての責務について理解する。			○			◎					

看護学科カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1	看護について基盤となる知識を身に付け、活用することができる。
DP 2	グローバルな視点で、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解するために教養と寛容さを身に付け、行動することができる。
DP 3	安全・安心・安楽な看護技術を身に付け、実践することができる。
DP 4	看護専門職として必要なコミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。
DP 5	あらゆる場でチームの一員として、連携・協働し、看護を実践することができる。
DP 6	地域で暮らす人々の健康を支援するための情報を収集・分析・統合することができる。
DP 7	看護に必要な倫理観、人の生命や人としての尊厳と権利を尊重する態度を身に付け、行動することができる。
DP 8	国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向け、人々の健康問題解決に向けて考え行動することができる。
DP 9	看護専門職として生涯にわたり研鑽し続けることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 1 0			
206	専門科目群V	教育原理	2	自由					欧米における近代教育の成立と発展に関して、市民革命や産業革命と教育との歴史のかかりをおさえつつ、近代学校に影響を与えた先駆的近代教育思想について理解を持ち、さらに現代教育に影響をあたえた新教育運動の教育思想について言及していく。そして第2次大戦後の日本国憲法に依拠した新たな教育の社会的原理や教育改革について考察していく。さらにユネスコが提唱し世界で受容されていった生涯学習論こそが、グローバル時代の教育原理であり、そこに基づきつつ日本のみならず各国での教育改革の進展も紹介していく。	◎	○											
207	専門科目群V	教育心理学	2	自由					本授業では「子どもの発達」と「子どもの学習とその指導」について基本的な理解を深めることを目的とする。特に「教育とは本来、個々の子どもに合わせた個別的行為ではないか」と仮定し、そうした視点から「授業」を考えてみる。具体的な達成目標として「子どもの発達を生物学的にも心理社会的にも適切に把握し援助できる」「子どもの学習指導についてその個人差に応じて計画し、指導できる」ことをめざす。	○				◎								
208	専門科目群V	特別のニーズ教育論	2	自由		○			インクルーシブ教育が通常学級において進められている現状を踏まえ、特別のニーズのある生徒への支援の方向性について学びつつ、特別支援教育の基本的な理解することを目的とする。特に、通常学級に在籍する“特別的教育的ニーズ”をもつ生徒の基本的な理解を前提として、特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法、特別の支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズのある生徒の学習上の困難とその支援などを理解することを目指す。						○			◎				
209	専門科目群V	教育課程論	2	自由		○			現代日本の学校教育における教育目的に関して、教育基本法と学校教育法の教育目的規定を確認しつつ、教育課程の国家基準である『学習指導要領』の総合的理解のために、これまでの歴史の変遷や今回の改訂の背景や基本方針、さらに改訂のポイントや移行措置等について取り上げていく。さらに中学校や高等学校での教育課程の編成の実際についても事例研究を進めていく。あわせて教育評価の基準である『生徒指導要録』の改定とその要点について考察していく。そして今日の全国一斉学力調査やOECDの国際学力調査の内容や結果さらに教育課程改革の動向にも言及していきたい。							○			◎			
210	専門科目群V	教育制度	2	自由					近代社会における近代公教育の成立と発展につて、欧米と日本の歩みについて概観するとともに、現代日本の教育制度を方向づけている日本の戦後教育改革の内容と特色さらには1950年代以降の教育制度の再編について、日本国憲法や教育基本法さらに学校教育法をふまえ具体的に考察していく。そして今日の教育制度の諸側面（幼児教育・義務教育・中等教育・高等教育・特別支援教育・教育委員会制度等）に関して、制度の現状と今日的課題の把握とともにそして改革の方向性について考察をすすめていく。	◎												
211	専門科目群V	道徳教育の理論と方法	2	自由					教員としてどのようにして道徳の指導にあたるのかという課題に対し、そのための知的準備と指導力の自信を育むことをめざす。学校で行われる道徳の指導に関し、歴史、法令、カリキュラム上の位置関係と、指導方法、副教材、学校内・外の教師たちの研修の在り方、子どもの道徳性の発達理論、今日の社会環境の変化と子どもへの影響関係、他の主要国の徳育のあり方や改革動向などを理解する。	◎												
212	専門科目群V	教育方法論	2	自由					教育実践のために必要な教育の方法および技術の知識・技能について理論的・実践的に考え、その成果を受講者各自が教育課題に適用する方法を見出すことを目標とする。学習指導者がよりよい授業を開発し実践していくため、教育情報をどのように取り扱っていけばよいかの方法論を学び、教育情報の分析・解釈・創造・編集・表現・伝達や理解等の、教える心理や学ぶ心理についての理論と具体的な方法と技術の理解を深める。	◎												
213	専門科目群V	特別活動と総合的な学習の時間	2	自由					生徒の全人的成長を促すための教育活動としての特質を有する特別活動を指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解するとともに、各教科等の学びを横断的・総合的に探究し、自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間の特質を踏まえ、往還的な探究学習を展開するに必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解する。	◎									○			
214	専門科目群V	生徒指導	2	自由					生徒指導の基本的な考え方、学習指導・教育相談との関わりについて幅広く学ぶ。そして、学校における児童・生徒の心理や状況を把握し、それらに応じた諸々の指導がどのように行われているのか、課題や対応の仕方について理解を深める。	○					◎							
215	専門科目群V	教育相談(カウンセリングを含む)	2	自由					現代の学校でおきている不登校、いじめ、非行などの問題を通して、思春期・青年期にある生徒に特有の心の特性を、教師として受容的・共感的に理解し、自ら乗り越えることを通じて人格的成長を促す関り、態度を養う。また、教育相談の理論的・技術的な基本となるカウンセリングの理論と方法を学習し、生徒の相談に応じるための聞き方、傾聴的関わりを実践できることをめざす。さらにカウンセリングの基本となる考え方を自らの教育実践に生かすことのできる教師になることを期待している。							○		◎				
216	専門科目群V	養護実習(事前及び事後指導を含む)	5	自由					児童生徒の学校場面における健康管理、疾病予防、応急対応、保健教育、健康相談などの場に参加し、養護教諭の指導のもと活動することにより、児童生徒の成長発達と関係性構築の方法について理解を深め、養護教諭の機能と役割、養護実践活動における観察・判断・介入に関する実践能力を養う。さらに、事後指導においてグループワークなどにより、学校保健における今後の課題と養護教諭に求められる資質・能力について理解を深める。						○		◎					

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1	看護について基盤となる知識を身に付け、活用することができる。
DP 2	グローバルな視点で、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解するために教養と寛容さを身に付け、行動することができる。
DP 3	安全・安心・安楽な看護技術を身に付け、実践することができる。
DP 4	看護専門職として必要なコミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。
DP 5	あらゆる場でチームの一員として、連携・協働し、看護を実践することができる。
DP 6	地域で暮らす人々の健康を支援するための情報を収集・分析・統合することができる。
DP 7	看護に必要な倫理観、人の生命や人としての尊厳と権利を尊重する態度を身に付け、行動することができる。
DP 8	国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向け、人々の健康問題解決に向けて考え行動することができる。
DP 9	看護専門職として生涯にわたり研鑽し続けることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 1 0			
217	専門科目群V	教職実践演習(看護)	2	自由					これまでに学習した教職・看護に関する科目で習得した知識・技術、看護実習で培った看護の実践能力と明確化した課題を整理統合し、自己の探究課題を見出す。探究課題をテーマとしてグループを形成し、課題探究のための活動（フィールドワーク・インタビュー等）計画を立案、実施し、結果を考察する。グループの成果の発表、教員としての社会性、対人関係能力、児童生徒の理解と支援、学校組織と保健室運営、健康管理活動における看護教諭の専門性の視点で討議する。													
218	専門科目群V	助産学概論	1	自由		○	○		助産学の概念、意義、母子保健と助産の変遷・動向・諸制度・関連法規と助産業務との関連を学習し、助産師の役割、活動範囲、責務・機能・職業倫理への理解を深める。また、助産の対象となる女性、子ども、パートナー、家族の意思決定や生命倫理等について学び、より望ましい助産師のあり方と助産ケアについて考察し、今後の方向性を探求する。					◎	○		◎	○				
219	専門科目群V	周産期医学C	2	自由			○		妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における代表的な疾患の病態と診断の根拠を学習し、異常経過における対処と治療を学習する。また、助産師として必要な新生児蘇生法について習得する。	○									◎			
220	専門科目群V	助産診断・技術学A	1	自由		○	○		産科学の病態生理を踏まえ、妊娠期における対象を総合的に捉え、健康診査に基づいた助産診断や助産過程を展開するための基礎的知識と助産技術について学習する。また、妊娠期における異常時の看護、救急処置などの基礎的知識と技術についても修得する。	○		◎										
221	専門科目群V	助産診断・技術学B	3	自由		○	○		産婦（分娩第1期～第4期）及び胎児・新生児（出生後24時間迄）の健康状態を診断し、出産が安全に経過するよう援助できる能力を養う。助産に必要な理論と基本的技術を習得する。	○		◎										
222	専門科目群V	助産診断・技術学C	1	自由		○	○		産科学の病態生理を踏まえ、産褥期における対象を総合的に捉え、健康診査に基づいた助産診断や助産過程を展開するための基礎的知識と助産技術について学修する。また、産褥期の異常についても学修する。	○		○		○								
223	専門科目群V	助産診断・技術学D	1	自由		○	○		乳幼児の成長・発達、健康状態をアセスメントし、予防接種を含め正常からの逸脱を予防するためのケアを習得する。また、代表的な胎児期・早期新生児のハイリスクおよび疾患を学習し、保育器に収容された児への基本的な支援法について学ぶ。	○		○		○								
224	専門科目群V	助産診断・技術学E	1	自由		○	○		助産活動を支える相談・教育の健康教育の意義、種類と方法・評価について理解し、対象のニーズに合ったアプローチ方法を学修する。また、家族計画に関する基礎知識を生かした保健指導の実際も学修する。	○		○										
225	専門科目群V	助産診断・技術学F	1	自由		○	○		ハイリスク妊産婦や緊急時に臨機応変に対応できる実践能力を強化するために、ハイリスク妊産婦のアセスメントおよび援助技術について学び、実践できる基礎的能力を養う。	○		○										
226	専門科目群V	ウイメンズヘルス支援論	2	自由		○	○		女性の健康にかかわる専門家としてライフサイクル各期に応じた支援を行うための知識、身体的・社会的・心理的側面からみた女性の健康、倫理および人権に基づいた援助方法を学修する。				○				◎					
227	専門科目群V	助産管理	1	自由		○	○		助産施設の管理者としての施設管理、運営、助産師の役割について理解し、リスクマネジメントの視点から、助産業務管理の原理と技法について学ぶ。					○			○	○				
228	専門科目群V	地域母子保健B	1	自由		○	○		子育て世代を包括的に支援するための社会的資源、他職種と連携・協働について学ぶ。特に生後4か月程度までの母子のアセスメントを行い、産後うつや児童虐待予防のための支援について学修する。							○		◎				
229	専門科目群V	助産学実習A	1	自由		○	○		妊娠・分娩・産褥期にある女性とその家族、新生児を受け持ち、継続的な関わりから個別性に応じた助産過程を展開することができる。				○	◎								
230	専門科目群V	助産学実習B	8	自由		○	○		分娩期にある女性とその家族および胎児・新生児の身体的、心理的、社会的健康状態に応じた助産課程を展開する。助産実践に必要な基本的理論・知識、技術、態度を習得する。また、産婦とその家族にとって満足感のある出産について考察する。				○	◎								
231	専門科目群V	周産期の家族支援	1	自由			○		母性・父性の心理社会的特徴を理解し、複雑化・多様化する家族における子育て支援のために必要な知識と社会資源について学修する。								○	◎				